

第22回 補聴と聴覚活用を語るサマーフォーラム2024

日時 2024年7月14日(日曜日) 10時~16時

会場 ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市幸区大宮町1310 TEL: 044-520-0100)

9時30分 受付開始

10時 オリエンテーション

10時20分 特別講演 司会：岡野由実[群馬パース大学]

<題目> 「乳児と軽中等度難聴児の聴覚活用を考える：新たな挑戦とは？」

<講師> 廣田 栄子先生(筑波大学名誉教授)

<講演概要>

新生児聴覚スクリーニング検査(NHS)の国内導入から20年を経過し、その間に難聴遺伝子診断保険収載、NHS後の1-3-6プラン推進、厚生労働省・文部科学省共同プロジェクト構築、難聴児早期療育支援の指針・支援体制強化施策等があり、社会的に大きな変革を迎えた。NHS後には乳児の聴覚診断と支援、家族への助言が要請され、担当する言語聴覚士や教師は新たな局面に直面している。軽中等度難聴児では人工内耳聴覚と共通する点もあるが、発達支援の原点と発展、今日、めざしたい目標について考えてみたい。

12時 昼食

13時 分科会

3つの分科会に分かれて、進行役からの提案や参加者からの疑問や質問を受け、それぞれのテーマについてさらに深く話し合いを行います。

1. 乳幼児期(進行役：村上たか子[川崎市中央療育センター]・菅原充範[東京都立立川学園])・岡野由実[群馬パース大学]

難聴乳幼児が聞こえる世界に入ること、他者との相互関係を深めながら、コミュニケーションを楽しんでいく様子を、映像やエピソード等を交えながら紹介します。参考として、健聴乳幼児の初期の聴こえと他者との相互関係の様子についても映像を交えて紹介する予定です。さらに、難聴児へ聴覚情報をどのように保障し、どのように関係性を構築し、そして聴覚活用を促していけるか、日々の実践を振り返りながら、参加者の皆様と共に具体的に話し合い、考える時間にしたいと思います。

2. 学齢期(進行役：宮下恵子[千葉県立千葉聾学校]・進藤匡亮[横浜市立幸ヶ谷小学校])

令和6年4月1日より合理的配慮の提供が事業者にも義務化となり、「セルフアドボカシー」という言葉に触れることも多くなりました。自己の障害認識が深まることにより、難聴児自身が自身に必要な支援をまわりの人に説明し合理的配慮の提供を求め、積極的に社会に参加することができるようになっていきます。本分科会では自身の聞こえ方の把握やその手立てをテーマに、障害認識の深め方について話し合っていきます。

3. 聴力評価を含む機器フィッティング(進行役：木村淳子[横浜市立ろう特別支援学校]・中川辰男[前横浜国大教育学部])

補聴器フィッティングはまず聴力の正確な把握から始まります。年齢や合わせもつ障害によっては、聴力の把握が難しいこともあります。また教育現場では、補聴器フィッティングそのものが大切な学習ともなります。分科会では重複障害のある子どもの聴力測定・補聴器フィッティングや、フィッティングを通して聴こえの理解を深める指導についてまず話題提供します。そしてよりよい補聴器フィッティングについてみなさんと考えます。

15時 全体会 司会：笹目友香[国際医療福祉大学]

3つの分科会で話し合われた内容のまとめを行います。それぞれの分科会で話し合われた内容を全員で共有し、明日からの実践に繋がられるヒントを探ります。

16時 終了

